

島根の地域医療

第80号

2025/ 3/31

SHIMANE
AKAHIGE
BANK



発行者 島根県健康福祉部
医療政策課医師確保対策室

今回の紙面

◆地域医療最前線 NO.85

◆専攻医のページ

◆看護師さんのページ NO.63

◆しまね総合診療センター地域医療イベント(ウエスタンカーニバル、オキフェス 2024、よしおオータムセミナー)

◆病院見学バスツアー

◆編集後記

「へき地でプライマリ・ケアを極める」

《浜田市国保診療所連合体 弥栄診療所 所長 佐藤 誠》

「吉賀 再生中の病院での働き」《よしお病院 総合診療科 三谷俊貴》

「県の育成事業を活用して活性化しています」

《訪問看護ステーション友喜 管理者 郷原早苗》

《しまね総合診療センター センター長 白石吉彦》

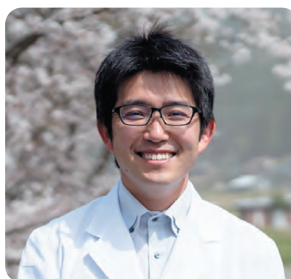
《島根大学医学部医学科 1年 石井真我》

地域医療 最前線

No.85

へき地でプライマリ・ケアを 極める

浜田市健康福祉部 医療統括監
浜田市国保診療所連合体
弥栄診療所 所長 佐藤 誠



皆さん、こんにちは。このたび島根の地域医療の寄稿の機会を頂きましたので、私の経歴を簡単に紹介した後、私たち「浜田市国保診療所連合体」についてご紹介させていただきます。

私は千葉県出身で、大学は和歌山県で学びました。医師を志してから救急医になりましたが、在学中に救急患者を助けることも重要だが予防がもっと大事ではないかと考えるに至り、公衆衛生に興味を持ちました。しかし、臨床も楽しく進路を迷っていた際に、家庭医療(当時は総合診療という言葉はありませんでした)に出会い、その道に進み2024年で20年になります。

医師になってからはへき地医療が楽しく、岐阜県、福岡県、新潟県などでへき地医療に従事してきましたが、もっと予防を行政と一緒にしたい、さらに地域で一つの診療所で働

きたいと考えるようになりました。北海道から沖縄県まで検索したところ、島根県の浜田市を紹介する赤ひげバンクのHPを見つけ、今まで未踏の地であった島根県に見学に来たのが2012年の話になります。その時に見た日本海に沈む夕焼けがあまりに美しく、島根県民になってから12年が経ちます。

浜田市で働く一番の決め手になったことは、海と夕日もさることながら、グループ診療であったことでした。我々はこのグループ診療の名称を「浜田市国保診療所連合体」と呼んでいます。図のように、浜田市の国保診療所4つ、浜田医療センター総合診療科、浜田市役所健康医療対策課の6か所に現在5人の医師がおり、皆で共通の目標を持ちつつグループ診療を行っています。

例えば、私は、あさひ診療所、波佐診療所に週に1回行きながら弥栄診療所で所長をしております。今は診療所をメインで働いていますが、過去には市役所で働いていたこともあり、浜田市の健康指標について分析をしたり、コロナについて市民への発信なども行ったりしました。

なお、ミッションや5つの方策は一昨年皆でワークショップをして決めたものになります。行政にも籍を置きながら地域医療を行い、かつグループ診療という取り組みは私の知る限り全国で2か所だけではないかと思っています。

現在浜田市の高齢化率は2024年10月末時点で38・6%になっていますが、私たちの働く地区では50%を超えています。それに伴い多疾

浜田市国保診療所連合体のミッション

～どこに住んでいても地域で暮らす人が安心して生活できるために、浜田医療圏の継続的な医療の充実を図る～

5つの方策

- ① 良質な医療の提供(プライマリ・ケア、在宅医療、病院総合診療)
- ② 人材育成
- ③ 職員がお互いに助け合い、楽しく働き学び続ける
- ④ 他機関とのネットワークの形成
- ⑤ 保健医療福祉政策への参画



浜田市国保診療所連合体のミッション



医師募集中!



北條 宣孝

浜田医療センター 総合診療科

あさひ診療所

大塚診療所

弥栄診療所

波佐診療所

佐藤 誠

佐藤 優子

上野 伸行

邊田 健一

浜田市 Hamada City

合併存の高齢者が増え、更に認知症が問題を複雑化しています。一方で若者の減少により医療介護人材不足になりましたが、一昔前は地域で完結できていましたが、いまやできなくなり現在多職種連携を組み直しております。地域でたった一つの診療所としてプライマリ・ケアを提供していますが、プライマリ・ケアが簡単で思っています。もし本稿をお読みくださった方の中で、プライマリ・ケアをとともに極める旅に出てください方、絶賛募集中です。連絡お待ちしております。

専攻医のページ

吉賀再生中の病院での働き

よしか病院 総合診療科

三谷 俊貴

皆様はじめまして。鹿足郡吉賀町にありますカタクリ会よしか病院総合診療科の三谷俊貴と申します。松江市出身で、



2016年に島根大学医学部へ入学し、卒業後は益田赤十字病院で初期研修を行いました。その後、このよしか病院で勤務しております。

よしか病院は、その前身である「六日市病院」が経営悪化のために運営継続が困難となり、2024年2月29日に閉院し、その後を引き継ぐ形で3月1日に開院しました。吉賀町の医療の中心となっていた病院の経営破綻というところで、ニュースにもなっており存じの方も多いことと思います。

それでは、なぜ吉賀町の出身でもない私のような若造がよしか病院に勤務しているか、それはまさに縁があったためです。初期研修中にこの病院の話を知り、当時の上司からよしか病院の勤務の提案を受けました。私自身ほかの人とは少し違ったことへ挑戦したい」「こういった病院がどのように立ち直っていくのか見たい」「地域を中心とする病院ではどのような働き方ができるのか経験を積みたい」といった

ことを考えていたため、その提案を快諾し今に至ります。

働き始めて一年が経とうとしている今日、地域の中心となる病院で非常に多くの経験をさせていただいております。吉賀町は高齢化率が46・4%（R5・10・1現在）と、高齢化の進む島根県の全19市町村の中でも第4位となり上位です。当然ご高齢の方を診ることも多く90歳代や100歳代を超える方も多いです。

多疾患併存が当たり前の地域でいかに全身状態を安定させ入院に至らないようにするか、入院になった際なるべくADLが落ちないようにするにはどうすべきか、ADLが落ちた場合はどのようなサービスを利用して退院につなげるか、こういったことがよく問題となります。

こういった状況で診療をするにあたり、日々多職種での連携の重要性を痛感しております。雇用により動くことができなくなった方が、病棟でのリハビリテーションと食事療法により歩くことができるようになった症例は、非常に印象に残っております。

また、訪問診療にも携わらせていただいております。私にとって初めての経験であり悩むことも多いです。



よしか病院

家庭の状況が決して整っていない方ばかりではないことを実感しております。夏にはエアコンの無い部屋で熱中症を避けるように生活の

指導なども行いました。冬は冷えてくるので低体温の予防に努めていく必要があります。

このように、いわゆる大きな病院ではできないような経験をさせていただき、毎日がとても充実しております。ここでしかできないような経験をさせていただきながら、これからも地域に貢献していきたいと思っております。



県の育成事業を利用して活性化しています

医療法人同仁会こなんホスピタル
訪問看護ステーション友喜

管理者 郷原 早苗

訪問看護ステーション友喜は令和六年、事業開始30周年を迎えました。

友喜の基本理念は「地域に根ざした看護を提供し、利用者様の在宅生活が安心して過ごしていただけるよう支援していく」です。

入院されていた方が、回復されてご自宅に帰られます、あるいは、病状は重いけれど、今ならご自宅に帰られます、という時に、24時間対応してくれる訪問看護ステーションが見つからなくて帰られない！ということは絶対にあってはならないと思っていますので、依頼を断らないをモットーにがんばっています。依頼してくださった方の自宅が訪問には時間がかかる山間地の場合もあります。時には採算に合わない訪問もあって良しと考えています。

私は8年前に友喜の管理者になりました。



集合写真：郷原早苗管理者（前列中央）

した。それまで長らく病棟勤務をしていた中で、退院されて外来で出会う顔、ご自宅に行かせてもらった時の、患者様ではない一家の主としての姿に出会う時に、いつか訪問看護をやりたいと思ってきました。

飛び込んだ訪問看護の世界は思ったとおりの世界でした。呼吸器のベビーちゃんの沐浴・吸引をしたこと、夜間急変され先生と連携しながら救急搬送したこと、認知症の利用者様をご家族と共に支えたこと、精神疾患で辛い利用者様の想いを傾聴し、時には助言し、家族支援をしたこと、癌末期の疼痛コントロールをしながら本人・ご家族と語り合ったこと、ご自宅での静かな看取りをご家族と共にしたこと、8年間のすべてのケースが大切な宝です。

友喜のフィールドである松江市六道町は、介護保険制度が始まる前から、医療と福祉の連携がとてもよく、気持ちよく働かせてもらっています。松江市・出雲市・雲南市の総合病院の地域医療連携室や居宅介護支援事業者の皆

様とも円滑な連携をさせていただいて
おり感謝しています。

一方で、多くの訪問看護ステーションの悩みは、職員の高齢化であり、募集しても若い職員が入ってこない現状があります。友喜は県の医療政策課が実施している「島根県新卒等訪問看護師育成事業」を利用して、令和2年4月新卒看護師を採用しました。補助金制度があり、一人で訪問看護が実施できるまでには時間がかかるという面での助けになりました。また、育成という面でも、県作成の育成プログラムがあり、担当職員の方と連絡を取り合いながら安心して進めることができました。

基本的姿勢は「全員で育てる」です。スタッフ全員が同じ倫理観を持っていると信頼しています。新卒看護師は順調にスキルアップして、今年度は特定行為研修を受講しています。この研修受講についても、県の補助金制度（特定行為研修関連教育受講支援事業）があります。

来年は、鳥取大学医学部の看護学生に体験を伝えることを頼まれています。今年度はこのような流れを知って応募してくれた方を採用しました。8年前看護師4人だった訪問看護ステーションは、今は看護師8人、PT1人、専属事務職員1人の訪問看護ステーションになって、にぎやかに活動しています。

私は、島根県訪問看護ステーション協会の事務局もしています。30年前、11か所だったステーションは令和6年4月には86か所になりました。お近くの訪問看護ステーションへのご支援、ご協力をぜひよろしくお願いいたします。

しまね総合診療センター 地域医療イベント2024

島根大学医学部附属病院
総合診療医センター長

白石 吉彦



島根大学医学部附属病院総合診療医センター（しまね総合診療センター）は、地域医療と教育の推進を目的として、地域の医療機関と協力しながらイベントを実施しました。「ウエスタンカーニバル」、「オキフェス2024」、そして「よしかオートタムセミナー」です。各イベントの特色とその概要について以下に記します。

①ウエスタンカーニバル

2024.8.31(土)〜9.1(日) 江津市

従来、益田赤十字病院が中心となって研修医を対象に島根県西部地域で行われてきましたが、今年は対象を多職種に広げて江津市で開催されました。医師、看護師、理学療法士、臨床検査技師など多様な医療従事者や、医学生、看護学生の総勢55名に参加いただきました。

初日は地域医療を支える県内外講師の講演から始まりました。西部の病院・診療所の若手医師から各地域で働く中で経験したこと、現状や問題点、それぞれが思うことについてのお話、島根県立大学 山下一也学長、厚生労働省で仕事をされていた益田赤十字病院

正林督章先生、また江津・浜田、岩国から看護師・診療看護師の方のご講演もありました。職種や地域を超えたお話はとても刺激になり、夜は有福温泉で職種、年齢、所属機関を超えて交流を深めました。

2日目は、ローカルジャーナリストの田中輝美さんに講師としてお越しいただき、地域で働く楽しさややりがい等を共に考えるグループワークを行いました。このグループワークでは最後に明日から実践できることをそれぞれが考えました。

②オキフェス2024

2024.9.22(日)〜23(月)
隠岐の島町

台風の接近により開催が危ぶまれましたが、無事に隠岐の島町都万地区で開催されました。島外から29名の医師、医学生、看護師、看護学生が集い、都万地区の集落で6班に分かれてお宅訪問を行い、離島で暮らす良さと苦勞、不便な部分を住民から聞き取りする形でフィールドワークを行いました。公

民館に戻り元都万診療所長の佐藤勝医師の講演をお聴きし、その後フィールドワークの報告会を行いました。夜はバーベキューで親交を深めました。

翌日には前日の6班ごとに、住民を交えながら都万地区の地域課題の解決策を考え、プレゼンテーションを行いました。佐藤先生、隠岐広域連合副連合長、隠岐病院副院長、私の4名で鋭い突っ込みをいれながら、より現実感のある提案に仕上げていくという人気YouTube企画「令和の虎」をもじった「離島の虎」という形で行われました。

医学生、看護学生にとって、住民と直接対話をしながら、離島における地域課題を考えると、リアル体験はかなりインパクトがあったようで、ぜひ来年度も参加したいという声が多数聞かれました。

③よしかオートタムセミナー

2024.10.5(土) 吉賀町

秋晴れの吉賀町で医療従事者、役場関係者と地域住民約70名が参加するセ



ウエスタンカーニバル



オキフェス 2024



よしかオートタムセミナー

ミナーとなりました。このセミナーの1部では、地域の総合診療医の役割、後方病院である益田赤十字病院の救急受け入れの現状、特に小児救急医療の実態を紹介していただきました。その後、総合診療医としてコミュニケーションスキル、スピタルの立ち上げや小児救急のワークシヨップを開催されている茂木恒俊先生にご講演いただき、今後のよしか病院の医療についてディスカッションが行われました。2部では吉賀町のワクワクパーソンにご登壇いただきながら、相互交流する形で吉賀町の豊かな自然環境などの魅力、課題を再認識し、地域医療における問題点とその解決策を探ることができました。

これらのイベントを通じて、しまね総合診療センターは、地域医療の発展と若手医師を含む医療者の育成を推進し、地域と医療者の連携を深める機会を提供しました。また、各地で抱える医療課題を共有し、地域に根ざした医療の重要性を再認識する場となりました。

今後これらの活動を継続し、地域社会と医療の未来を支えるための取り組みを進めてまいります。

病院見学バスツアー

島根大学医学部医学科 一年

石井 真我

皆さんはじめまして。島根大学医学部医学科一年の石井真我と申します。

このたび、令和6年8月1日(木)にしまね地域医療支援センターが主催する病院見学バスツアーに参加しましたの

で、ご報告をさせていただきます。はじめに、少しだけ自己紹介をしようと思います。私は、現在医学生として大学で勉学に励む傍ら、様々なセミナーへの参加や医療機関での診療見学などを通して、地域医療についての理解を深めるために日々精進しております。

今回のバスツアーでは、西部島根医療福祉センターと島根県済生会江津総合病院を見学させていただきました、最後にアクアスへ行きました。

西部島根医療福祉センターは、小児を含め障がいをお持ちの方が暮らす福祉施設としての機能と病院としての機能を持っており、見学では障がい者ケアの現場やリハビリを拝見しました。ケアの現場では日ごろから患者さんの普段の仕草や雰囲気などの把握に努め、患者さんの変化をいち早く察知できるようにしていることが分かりました。また、医療的な支援だけでなく「患者さんの生活のサポート」をとっても大事にされていることが印象に残りました。そしてリハビリでは、実際にVRを利用した体性認知協調療法をされているところを拝見し実際に体験もしました。実は、この療法の普及に尽力されている原正彦先生には以前の講義で医療の社会実装と産学連携について講演をしていただいたており、講義で習ったものが実際の医療現場で活用されている



ところを拝見して、知ったことを実践的な学びにつなげるためには自らの目で実際に見てみる事が大切だと改めて感じました。

続いて、島根県済生会江津総合病院は江津地域の医療において中心的な役割を担っている病院です。見学では講演と手技体験をさせていただきました。

講演では現在、常勤医の医師がわずかに11人で、脳神経領域の先生がいないなど、常勤医不在の診療科があることや、その中で診療看護師という特定行為などの診療行為を行うことができる看護師がいて、江津の医療の支えになっていることを知りました。手技体験ではキットとエコーを使って採血に挑戦しました。エコーで血管を見ながらの挑戦でしたが血管内に針を正確に入れるのが難しかったです。

最後に訪れたアクアスでは、シロイルカやアシカのショーを見たり、アイスクリームを食べたりして楽しめました。

大学に入って一つ一つの学びの機会をつかむたびに、自分はあるがたいことにしまねで多くのご縁に恵まれていると感じています。

私は、新たに始まった大学生活の中で「ご縁を通して多くを学ぶことで自分の視野が広がり、見えるものが増えることで自分で考えられることが増え、自らの思考の幅が広がることで選択できる行動が増え、そしてさらに充実した学びにつながる」と思うようになりました。

今後もしまねで多くの方とのご縁や学びの機会を大切にするともに、今度は受動的に機会をつかむだけでなく自ら主体的に機会を生み出したいと思っています。



病院見学バスツアーの様子

編集後記

『島根の地域医療』第80号をご覧いただきありがとうございます。また、お忙しい中にもかかわらず執筆いただいた皆様、ありがとうございます。島根県 HP では、医療機関の医師募集情報(令和6年11月更新)を掲載しています。詳しくは、<https://www.pref.shimane.lg.jp/medical/kenko/iryo/ishikakuhotaisaku/isi-kyujin.html> または、「島根の医師確保対策」で検索、ご覧ください。

